

# 自然栽培の実践者

## 自然の連鎖の中で成り立つ

## 移住を促す原動力にも

自然栽培という農法が注目されている。農薬も肥料も除草剤も使わず、太陽と土、水、微生物の力だけで米や野菜を育て、作物本来の味と滋養を引き出す方法だ。近年、食の安全や味、環境に敏感な層を中心に、自然栽培の米や野菜を求める人が増えている。

石川県羽咋市は地域を上げて「はくい式自然栽培」を推進しており、その取り組みは移住者を引き寄せる大きな原動力となっている。綾部でも自然栽培に取り組む人は多く、自給的な農を営む人もいれば、仕事としての農業で販路開拓に取り組む人もいる。それぞれの立場から、自然栽培の魅力や難しさを語ってもらった。【平田佳宏】

### 七百石町の河野豊さん



右から河野豊さん、河野農園代表の遼さん、郁代さん  
(写真はいずれも七百石町で)

### 一家で「河野農園」営む 味こそ自然栽培の価値

一家で自然栽培の「河野農園」(七百石町)を営む河野豊さん(71)の固定客をつかんでい

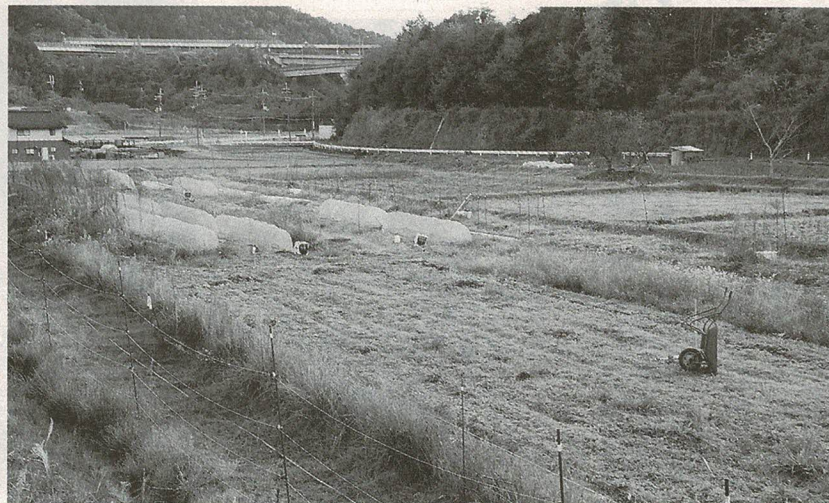
長男・史さん(39)、次男・遼さん(36)、三男・旦さん(34)の5人家族。現在の圃場の面積は水田3反(約30ア)と畑9反半(約95ア)。水はけが悪く、状態が良好とは言えない休耕田に暗渠工事を施すなどして改良し、圃場を拡張してきた。

河野さんの自慢のコマツナは大きく、虫食いもない。咀嚼するほどに驚くほど甘さが口の中に広がるこのコマツナを、河野さんは緑

の宝石と呼ぶ。「安心・安全」だけではため。一流の料理人も認めるこの味こそが自然栽培の価値」と河野さんは言う。河野農園で行って

### 自然栽培は自給への「小さな農」に向く

自然の力だけで育てる自然栽培は、虫も草も敵としない。環境を整えば、自ずとバランスが保たれる。しかし河野さんは「自然栽培を生業とするのはお働



休耕田などを改良して圃場を拡張してきた

めできない」と言う。きちんと環境が整うには時間がかかり、自然の決めた収穫期にまともて穫れるので、時期をずらしながら長く収穫することが難しいからだ。このため、河野さんは自然栽培の作物を「他の追随を許さない河野農園のフラッグシップ(最上位)」と位置づけ、それ以外は有機栽培も取り入れている。

自然栽培は自給のため「小さな農」に向いていると河野さんは言う。ただし無農薬・無肥料だけでは自然栽培は成り立たない。「自然の連鎖の中で行うのが自然栽培。都会の環境やプランターの中ではできない」。

自然栽培は、中山間地など自然豊かな農村地域でこそ可能な農法だ。

日々、自分のやり方を模索

と思つたという。さらに30代半ばのころ、老富町で「食養を説いてやり方は百人百様だ。まで手が回らない」というのが水田さんの悩